立教大學新聞
発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
© 振替東京70852
電話(97)3121—9内線97
発行人　野口定男
毎月廿日発行

原子炉寄贈問題に新段階

準備態勢を整えよ
ポラード書簡で要請

一昨年秋、原子力平和利用の一環として、米国公会から極東地方の大学へ原子炉を寄贈するという計画が発表されて以来同一年十一月、米国アルゴンヌ国立原子力研究所理事長ウイリアム・G・ポラード博士の本学視察などによって要公会に属する本学が最有力候補となったが、昨年四月総長の渡米を続けていたが十月、総長からポラード博士宛に書簡を送り、その後の動向を尋ねた結果、十一月二十九日、総長の許にその返事が届いた。本年に入り去る十四日、先に発表した原子炉受入れ委員会を開き、ポラード博士からの返事を公開、さらに二十四日の連合教授懇談会でそのコピーを全教授に公開、今後の方針を協議した。

ポラード博士からの返事によると、「寄贈は来年の要公会総会後になると思うが、その前に準備態勢を整えて欲しい。」という旨のものであり、とにかく本学への原子炉設置に対する進展への一段階といえよう。【写真はポラード博士】

旨要簡書ポ

松下総長の十月廿七日付の書面に対してお答えする。

原子炉を米国要公会より立教大学へ寄贈するという問題について、一九五八年の要公会総会での可決を得るために、私は喜んで貴下とともに

個人として出来る限りの努力をするつもりである。そのために私の提案した計画に八つの手段が必要即ち

一、実験用原子炉を要望する六ないし八の会社から原子炉の型について（AMF・ATOMIC・INCからはすでに得ている）別便で御送りする。

二、これらに、私の意見をそえておくから、立教大学の理学部のスタッフで研究していただきたい。当方で設計基準、設計明細書を決定しうるよう貴国のリストに答えていただきたい。

三、（二）の手続きを経て予測しうる費用内での原子炉納入を要望する会社からの入札を要請する。

四、入札後、検討の上で最上の原子炉について明細な設計説明書を御送りする。炉の附帯施設についても納入会社の詳細な条項をもつけくわえる。

五、そして貴大学側では建物などの附帯施設について費用の見積りをしていただきたい。

六、以上の資料が整えば炉を入れるための施設に必要な資金の調達について、如何なるときめができるか貴大学側で明確にして頂きたい。総会（要公会の）が動き出すためにはこの種のはっきりした資料が必要である。

七、一方、貴大学の理学部のスタッフは協力して研究と計画をすすめ、要路加病院へ供給する放射能アイオテイン、燐、金及びその他のアイソトープについての生産計画と病院が大学へ支払うアイソトープの適切な価格を決定し、さらに作業人員、炉の一日当りの操作時間などを操作上の計画を立てていただきたい。

八、以上の七事段を経た計画に加えて日本とアメリカと両方の政府側と双方の承認が得られれば、私達は総会の審議のため、代議員にあらかじめ働きかける意味で準備工作をするつもりである。

以上の如く今後の問題は多いのだから、一九五八年九月の総会の開かれる時）までという期間は長すぎはしないと思う。こういう基礎工作をすすめることに貴下の御賛成ならば、私は勇一杯の協力を惜しまない。貴下の十月二十九日付の書簡は委員会員によって好意をもって受けとられたことを御伝えする。

副議長ウイリアム・G・ポラード一九五六年十一月廿九日

立教大学総長松下正壽殿　原子力平和利用総合調査委員会委員長オリアーヴイン・J・ハート司教副議長ウイリアムG・ポラード師

書記　チャールス・マーティン師　アルバート・ステユワート師、

卒論ノイローゼ

小山栄三

卒論提出期は指導教授と相談することになっているのだから半分以上も落ちるということは指導教授がその指導に責任があったということにもなるのでまたの新聞にも書きたてられ、学部長なども先生の方が少しひどいといわれたけれども悪いことになったと社会学の先生はその後教室での雰囲気をやめなかったがついに卒論で落ちた学生の一人が富士山麓で自殺した事件が起りこれがきっかけとなって卒論による落第は社会学でも ほとんどなくなった。

当時主任教授は東さんを離婚して独身であったので今でもこの時代をT教授のヒステリー時代と呼んでいる位卒論は学生にとって恐怖の的であった。だから卒論ノイローゼにかかって卒業間際に自己嫌悪に陥入って卒論提出を延期して何年も学校に残っているものも相当数いた。自分で書くのが不安で他人に書いて貰うものもあった。現に今東京都の要職にあるK氏のごとき は他の大学の卒論の代作で学資を稼いだ。

卒論提出期は指導教授と相談するのに無理に論文を書かしてもよい論文の出来る筈がない。殊に大学院も設立されているので来年度から社会学科と英文学科と卒論の選択制度とすることにかえて教育の自由に制ないようこうのがわかくしの見解である。だからと云うてわたしら卒論廃止論者でない。卒論自身がテーマを選び自分で資料を集めて勉強するのだから成る程卒論が自分の将来の学問のコースを決定する一生に一度自覚の目覚めであるというような見当違いの意見もあらわれるような始末である。だが卒論は廃止したのではなくその提出に学生の選択をかせいでいたのである。

来年度から社会学科と英文学科と卒論の選択制度とすることに教授会で決定したことが卒論の廃止と勘違いされ今度はその勘違いした卒論廃止の賛否という形で新聞紙上に問題として取り上げられたことは御存じの通りであって、なかには卒論の廃止は「研究の目覚」であるというような見当違いの意見もあらわれるような始末である。だが卒論は廃止したのではなくその提出に学生の選択をかせいでいたのである。

学部教授、社会学科長）

学園

卒論ノイローゼ

小山栄三

学科でも ほとんどなくなった。

当時主任教授は東さんを離婚して独身であったので今でもこの時代をT教授のヒステリー時代と呼んでいる位卒論は学生にとって恐怖の的であった。だから卒論ノイローゼにかかって卒業間際に自己嫌悪に陥入って卒論提出を延期して何年も学校に残っているものも相当数いた。自分で書くのが不安で他人に書いて貰うものもあった。現に今東京都の要職にあるK氏のごとき は他の大学の卒論の代作で学資を稼いだ。

の自用を認めたのだから卒論を書きたいひとはもちろん提出してもかまわないわけである。

新制の大学は四年制だけれども二年間は教養にとられ四年目は卒論と就職に時間をとられ、ほんとうは専門の学問を身につける時間は三年の時の一年間しかないと云う矛盾では卒論はエネルギーを費すより基礎的専門科目を勉強した方が将来のためでもあるし、またきとまった論文を書き上げるにしてもそれだけの基礎的専門素養が不足しているのに無理に論文を書かしてもよい論文の出来る筈がない。殊に大学院も設立されているので来年度から社会学科と英文学科と卒論の選択制度とすることにかえて教育の自由に制ないようこうのがわかくしの見解である。だからと云うてわたしら卒論廃止論者でない。卒論自身がテーマを選び自分で資料を集めて勉強するのだから成る程卒論が自分の将来の学問のコースを決定する一生に一度自覚の目覚めであるというような見当違いの意見もあらわれるような始末である。だが卒論は廃止したのではなくその提出に学生の選択をかせいでいたのである。

学部教授、社会学科長）

卒論自由選択制への理解のために

先に本学文学部の卒業文学科、社会学科が決定した卒論自由選択制（昭和三十二年度から実施）は学問にかなり波紋を浮げているようだ。毎日新聞一月九日付の紙面でもこの問題を大々的にとりあげ、関係者の賛否両論をきいているし、投書にも世人の意見が述べられたりして、並々ならぬ関心の程が示されている。

それらによると、今度の本学文学部の決定を全面的卒論廃止と考えているものが多い。自由選択制であることを忘れ勝ちのようだ。しかしこの制度は既に昭和二十八年度から青山学院大文学部で採用されており、事実昨年度の同英学科の卒業者三百六十人中、卒論提出者は僅か二十六人に過ぎなかったと（毎日新聞一月九日付）。ということは形式的には卒論自由選択制であっても、現実には廃止と大差はないであろう。今度本学文学部学生がこの制度に従いて強制されない、自主的三十二年度から実施）は学問にかなり波紋を浮げているようだ。毎日新聞一月九日付の紙面でもこの問題を大々的にとりあげ、関係者の賛否両論をきいているし、投書にも世人の意見が述べられたりして、並々ならぬ関心の程が示されている。

それらによると、今度の本学文学部の決定を全面的卒論廃止と考えているものが多い。自由選択制であることを忘れ勝ちのようだ。しかしこの制度は既に昭和二十八年度から青山学院大文学部で採用されており、事実昨年度の同英学科の卒業者三百六十人中、卒論提出者は僅か二十六人に過ぎなかったと（毎日新聞一月九日付）。ということは形式的には卒論自由選択制であっても、現実には廃止と大差はないであろう。今度本学文学部学生がこの制度に従いて強制されない、自主的

は学の理由が事実に反している、といつているのではなく、要するにそういう事態をおこさせた根本的な面に、学校側、教授がどれだけ熱意を示したかと考える時に、単に一方的に学生を責められない。ということをいっているだけだ。例えば、所謂難制大学生の学力低下（主に語学力）の問題は必ずしも学生達の不勉強の故ばかりではない。今日の入試地獄は衆知のとおりである。激烈な入試の関門を突破して入学してきた一般学生はむしろ高度な語学力をもっていた（少くとも入学当時は）。それが日がたつにつれて、全く勉強意欲を失うような、この授業内容の貧弱さ、押し着せの授業と、教授の学生をリードする意欲のなさが学力低下を生せしめているというのが偽わらざる実情である。これらに対し学校側はどの程度の努力をしたというのだろう。一つ一つあげれば不備だらけである。学校当局の教師も充分な反省をしなくてはなるまい。潤足のいくような体制（早急には勿論無理だが）を一日も早く、うち立て学生の勉強意欲をかりたてるような雰囲気にしてこそ、学力向上の因となるのだ。学生数の増加も弊害の一つではある。これからの学校経営としても考えねばなるまい。無論こうした種々の問題は、窮極的には現行わが国の教育制度そのものに欠陥があることは勿論であるが、またろくろく勉学する暇さえない社会情勢、就職シーズン（四年全部といってよい）ともなれば充実した卒論どころではあるまい。読むに耐えるような卒論が殆ど書けないのも当然であろう。

一、二年のいわゆる一般教養課程で忘れられたりの大学生としての基礎知識が得られるというのだろう。全くお粗末な現状である。教養課程での授業内容の充実こそ、当面の学校側と教授共通の必要事であると考える。文学部の今度の制度では卒論を提出しない者は八単位の講義を埋め合せることになっているが、今の講義では一冊の原書を一年間に何ページ読むだろうか。学生をして、この本を右にかじりついても読破しようという意欲を持たせるべく指導してこそ、卒論にかわる講読の価値が生れてくるのだ。卒論支持者の多くは卒論こそ人間形成に重要な影響を与える、卒論こそ学生の誇りであると云っている。その発言は尚早して原書を読む、そのファイトが、その自信が、その人の人生に大きくモノを云うのである、ということを含んでいる、講義の本質は卒論にかわるものとして決し て遜色はない。大いに期待してよい筈だ。あくまでも、本学が新しい時代の大学制度に新たなる問題を提起したことは、まことに意義深いことであって世の人々の注視を浴びたのも又、然りである。卒論自由選択制の成功、失敗は一重に本学の各教授と学生の学問への一途な努力如何にかかっている。我々はこの制度がより以上の成功をかち得ることを期待する。そして満ちたりた悔いのない学生生活を享有したいと思う次第である。

一部保留のまま 規約改正草案を承認
今期、最後の級委総会で

今期（三十一年度）最後の級委員会は一月二十一日定刻より三十分遅れ午後三時より四十番教室で行われた。級委員総数百三十九名中出席者わずかに四十九名という開会議決定数機ぎりぎりの低調さであった。まず議長選出に移り、向井君（経四）が選ばれて第一の議題即ち、本年度の第一回総会並びに評議会から今度の最終総会までの経過報告を横山委員長が行い、特に教育課程問題に関しては文学部卒論廃止をめぐって論議を起した（一月九日付毎日新聞）を取り上げ新制大学生の学力低下を主張する本学教育責任者の考え方に再検討を加えるよう級委員総代部から声明書が発表され出席者全員にその暴挙を責した。次に級委員会規約改正問題に移り改正草案が委員長から説明され一部保留のまま、これが承認された。そしてかなり大巾な改正並びに條項追加が行われた。特に本学に於て一度も聞かれなかった学生大会は「全学生の四分の一を以つて成立する」との追加條項が注目された。次に法令会計部長から三十一年度会計報告が行われ、この点が指摘された。次いで委員長が社会、学内問題に関する級委員活動の一般報告を行い最後に評議会並びに執行部解散があって七時半閉会した。

なお、執行部は四月まで、暫定的に事務をとることになっている。

募金六千五百五十円、各部化団体から七千七十五円、文化会本部から新聞広告の収入二千五百円総額二万二千百二十七円に上っている。

松下総長もこのカンパにとたえ、募金するというエコマもあった。

一万六千百廿七円に
北海道冷害救済カンパ

本学文化会本部では昨年十二月十七日文部キャプ、マネ会議で審議の上、翌十六日より北海道冷害救済カンパを実施した。次に法令会計部長から報告があり、これを今月十八日まで続けた。

文化会本部の報告によれば、校内募金六千五百五十円、各部化団体から七千七十五円、文化会本部から新聞広告の収入二千五百円総額二万二千百二十七円に上っている。

松下総長もこのカンパにとたえ、募金するという一コマもあった。

就職決定者は七四九名
1月17日現在 卒業予定者の八十%

一月十七日現在、人事課の報告によると本学の就職決定者は七四九名に達した。また自営、進学などの決定者を合せると八四六名でこの数字は卒業予定者の八十%を示し、好景気のため昨年同期の六十%に比較してかなり好調である。また女子学生の就職は依然として低調であり、今までに決定したのは六名だけである。しかしこの中で大学卒業者として採用された者は極くわずかという有様である。女子の求人がないというのが大きな問題であろう。今年の就職状況をみると運輸、自動車、電機証券会社関係などがよく、金融関係は二割ぐらい減っている。なお本紙前号の「昨年同期よりも一万六千百廿七円」とあったのは、人事課の報告にや下回る」とあったのは、人事課から発表されなかったその他の部門、百三十五社の決定者を含んでいなかったための誤報で、先述の通り本年度は昨年より好調である。

綱本人事課長談「順調に決っている。全体の八十%より少し上を行っている。すでに昨年一年分より求人社数は多く、就職決定者も昨年より二十%上回っている。また決定していても報告に来ない者もかなりいるので、決った早々知らせて欲しい」

十二月十三日から一月十七日までの就職決定会社名は次のとおり。

ホテル　帝国ホテル（経1）

運輸　日野定期船（経1）・大和運輸（経1）

鉄鋼・造船　日本鋼管（経1）

東京造船所（経1）

製作所　丸田工材（経1）・ケイガー薬器（経1）スター製作所（経1）・松島プレス工業（経1）・後藤鉄工所（経1）・高砂鉄工所（経1）・岡谷鋼機（経1）・昭和草業（経1）・日本ハードボード工業（経1）・大江工業（経1）・東洋精工（経1）・小糸製作所（経1）・新栄精機（経1）

証券　光亜証券（経1）・角丸証券（経1）・丸証証券（経1）

食品　ニッカウイスキー（経1）・鈴石酒造（経1）・ビルマン製造（経1）・酒悦（経1）

電機　理研電気製造（経1）・阿部電材（経1）・ミナミ無線電機（経1）

百貨店　オリエンタル中村百貨店（英1）・田中屋百貨店（経1）

保険　第一生命（研）（経1）

放送　ラジオ九州（英1）・ラジオ東京（文2）・大阪テレビ放送（英1）

その他　埼玉瓦化（経1）・鹿河銀行（経1）・全国信用金庫（経1）・川村学園（心1）・鬼怒川ゴム（経1）・国際電信電話（労1）・日本電信電話（経1）・全国土木建業国民健康保険組合（経2）・東洋織物（経1）・林製紙（経1）・帝国石油（文1）・ロックペイント（化1）・三和倉庫（経1）・東京YWCA（英1）・サンケイ社（経1）・木田建業（経1）・建築工業（経1）

印刷　明光印刷（経1）・医学書院（英1）・婦人画報（経1）・紅葉屋印刷（経1）

商店　高千代呉服店（経1）・三谷商事（経1）・吾妻商会（労2）・安部幸（経1）・巻田油業（経1）・岩谷産業（経1）・東栄商事（労1）・瀬川小間物店（経1）・小川酒店（経1）・竹内茶局（経1）・ていや（経1）・紀伊国屋（経1）・東京興業貿易（経1）・長島石油（経1）・中村被服（経1）・光和産業（経1）・東京新宿青果（経1）・田中商会（経1）・三田商店（経1）・清原商事（経1）・日本ナショナル金銭登録機（経1）・小峰洋紙店（経1）・若林洋傘工業（経1）・丸建工業（経1）・南部商会（経1）

自動車　横浜トヨペット（経1）・菱和自動車販売（経1）・東京自動車販売（経1）・荒川ライラック販売（経1）・東京自動車（経1）・東京ダイハツ自動車（経3・労1）

証券研究会設立す

級委内ゼミナールでは、本学に証券研究会がないために、各大学の問題を通して、はからずも鑑星され、指導的立場にある教育者の考え方が非常に消極的であることが明らかにされたからである。

「新制大学は、いわばアメリカのカレッジであり、一般教養に重きをおいているのだから、高校に少し毛の生えたくらいのものだ」とのこの文学部長の発言は何を意味するだろうか。アメリカのカレッヂの制度をより多く取り入れようとしたのは、立教ではないであろうか。すなわち級制が施かれ、出欠制が強化され、自由選択制が採用されず、指導教授が学生を指導する大学は、他にあまり見かけられない。では本学の一般教育課程についてどのように考えているであろうか。高校の延長に過ぎないかむしろそれより程度が低いという不満を多くの真面目な学生は感じている。

このことは級委員会の教育課程問題の調査の結果を見ると、授業内容を高め充実させて欲しい。又自由選択制を採用し、出欠制を廃止せよと云う学生の強い要求となっている。「いまの大学は大学院なのだ。低く扱われたとみる人もあるだろうが事実はそうなのだ。この点で教授諸氏の頭の切りかえも必要だろう。」との発言は、新制大学の現状を確かに正しく捉えている。併しだからと云って高校程度の教育内容でよい。それ以上を望むなら大学院へ行けと云うのは、学部長の発言としては当を得ない。現在の新制大学制度に不備な点があって出来る限り教育内容を充実させ、学生の資質を高める努力をすることが必要なのではあるまいか現在の制度は不備なのだ、だから高校程度の教育しか出来ないと考えるのは非常に消極的で、考え方に発展が感無量。

私がここでこの問題を取り上げたのは、本学の教育者の中に、非常に発展性のない考え方が支配しているのではないかと憂慮するからであり、また学生自身についても非常に学生らしくない者が多く、もっと深く反省すべきであると考えたからである。スポーツが強くなれば学生の資質が向上するなどと考えるのは誤りであろう。本学の図書館をみれば学生がどんな勉学条件に置かれているかよくわかる。非常に情けないことである。大学は学生あればこそ存在するのであり、学生の資質が向上してこそ本学の発展もあるのである。教授諸氏、学生諸君に大学というものについて、また本学の教育制度に充分内容、方針等について、これを構内掲示して下さることを望みたい。」

（経三　横山久臣）

菅文学部長の発言について

去る九日付毎日新聞紙上の学生教育課程の調査の結果を見ると、授業内容を高め充実させて欲しい。又自由選択制を採用し、出欠制を廃止せよと云う学生の強い要求となっている「いまの大学は大学院なのだ。低く扱われたとみる人もあるだろうが事実はそうなのだ。この点で教授諸氏の頭の切りかえも必要だろう。」との発言は、新制大学の現状を確かに正しく捉えている。併しだからと云って高校程度の教育内容でよい。それ以上を望むなら大学院へ行けと云うのは、学部長の発言としては当を得ない。現在の新制大学制度に不備な点があって出来る限り教育内容を充実させ、学生の資質を高める努力をすることが必要なのではあるまいか現在の制度は不備なのだ、だから高校程度の教育しか出来ないと考えるのは非常に消極的で、考え方に発展が感無量。

私がここでこの問題を取り上げたのは、本学の教育者の中に、非常に発展性のない考え方が支配しているのではないかと憂慮するからであり、また学生自身についても非常に学生らしくない者が多く、もっと深く反省すべきであると考えたからである。スポーツが強くなれば学生の資質が向上するなどと考えるのは誤りであろう。本学の図書館をみれば学生がどんな勉

クリスチャン寮生募集

付五千五百円となっている。この寮は板井チャプレンに父兄から寄贈された家屋をクリスチャンのために寮としたものである。申込みはタソカホール四階の総岡助手まで。

反響よぶ"菅発言"
〝教育方針に問題〟と級委立つ

去る一月九日の毎日新聞紙の教育学生欄で本学文学部の卒業論文の自由選択制についての特集記事が掲載された。これについて、級委員会では記事中の菅文学部長の発言（別項）に問題があるとして去る十二日の級委懇談会で討議した。

今後級委員会としては①学力の低下の問題もこれまでの本学の一般教育制度に原因するのではないか②さらに文学部長の発言からうかがわれる学校側の教育基本方針とこの学術的な交流に支障をきたしてきたが、ゼミナール会員を中心として、今度、証券研究会が設立された。有価証券一般に関する研究を目的とし、月二回出一証券論壇で開かれる発表会に参加する。

ツギハギ論文より講読

立大文学部長　菅円吉氏

新制大学生の学力低下はいたし方ない。とくに語学力が昔にくらべて非常に劣るから、原書を読破して卒論を書く力がない。新制大学は、いわばアメリカのカレッジであり、一般教養に重きをおいているのだから、高校に少し毛の生えたくらいのものだ。だから卒論も昔の学士論文とはちがい、レポート程度でしかない。昔の学士はいまの修士コースに当るのであり本当に専門学に専念する人は大学院にはいって本格的な論文を提出すればよい。そこで大学でツギハギの論文を書くくらいなら、講読でいい本をガッチリと読んだ方が学生のためになる。立大では特にゼミナールに力を入れており、これで十分に実力はつく。いまの大学は大学ではなく、本当の大学は大学院なのだ。低く扱われたとみる人もあるだろうが、事実はそうなのだ。この点で教授諸氏の頭の切りかえも必要だろう。

文学部一年A君の話　僕等は嘗あつてこの大学に入って来た以上高校に毛の生えた程度しか学び得ぬのであれば嘆外だ。卒論の自由選択制によって一戸の学力低下を招かぬともかぎらない。

文学部一年のOさんの話　大学に入ってきたのは何といっても、勉学したいという気持が第一です。学力低下云々のことは卒論が自由選択制になってかえって一層学力が低下するのではないでしょうか。

経済学部二年S君の話　菅教授は語学力が落ちているといっているが昔の学生より語学が出来るという向もきく。本当にやるなら大学院へ行つてやれというが、そうは思わない。学力の低下ということは、われわれ学生としても感じるが、一般的な低い視野に立つてみれば決して退歩ではないと思う。学力低下をなげくだけではしようがない。もっと教授のレベルを上げなければ。

文学部四年Mさんの話　現状をみる。

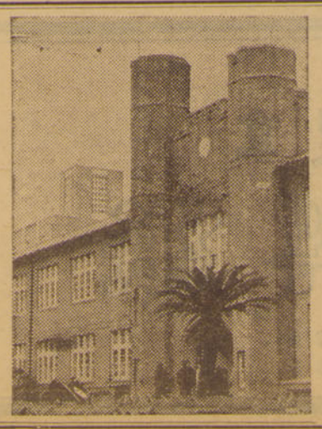
学生さん大歓迎

ダンス教授
初心者専門速成教授
新大久保駅前交番横入ル
国電神田駅前三菱銀行貴寮
国電新橋駅鳥森口正面二階
三田共通(36)1374　各一分
巴里院ダンス教授所

実地試験免除

入学随時　毎週火曜休校
寄宿舎完備
日本一を誇る10,000坪コース
学校法人 東急自動車学校
交通に便利な
東横線・目蒲線多摩川園前駅下車
大田区田園調布二丁目一三七五番地
TEL (72) 3315・7071

立教大学



経済学部（経済学科、経営学科）
願書受付　三月一日
筆答試験　三月五日

文学部（キリスト教学科、英米文学科、社会学科、史学科、心理教育学科、日本文学科）
願書受付　三月五日
筆答試験　三月八日

理学部（物理学科、数学科、化学科）
願書受付　三月十九日
筆答試験　三月廿二日

大学院
修士課程（文学研究科、経済学研究科）
博士課程（理学研究科）
願書受付　（修）三月一日　（博）二月廿日
筆答試験　自三月下旬　至四月上旬
開始
◎入学要項郵送希望者は四十円を同封し（封筒不用）左記宛申込みのこと。
東京都豊島区池袋
立教大学入学案内係

二階に学習参考書を陳列して御座います
芳林堂書店
池袋西口バス通り
TEL (97) 四〇八〇・八〇二五

COFFEE : MUSIC
西口 紫苑
TeL(97)3048

Sailor
新発売!!
ツートーンカラー
只今セーラー万年筆お買上げの方には新製品セーラーインキを無料で差し上げます
セーラーペン子
画期的な新製品
セーラーロケット
十四金ペン付……1000円

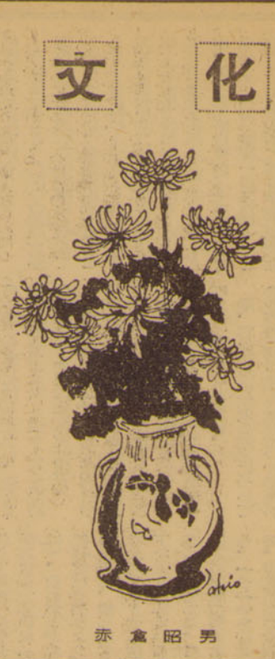
運転免許取得は就職の近道！
練習は短期に而も断然安い！
普通車・一教程　300円
小型車・一教程　250円
公認 北区立 赤羽自動車練習所
実地試験免除
技術証明書発行
赤羽駅東口下車
TEL (90) 4811—4813　案内書送　郵券8円

美しく書けて　水にも散らない
丸善アテナインキ
万年筆に入れても
アテナは固らず
気持よく書けた字は
永久に消えない
30円・50円
全国有名文具店にあり

文化

学生の暮と正月

山下肇


赤倉昭男

山下肇氏

十二月の半ばもすぎた頃、家のラジオがこわれたので大学のアルバイト委員会に寄つてラジオクラブの学生に修理をたのんだ。「さあ、もうみんな帰省しちまつたかもしれませんよ」と委員の学生が首をひねり、私もしまつたと思つたが、幸い学生はすぐ修理にとんできてくれた。もうひとつきりアルバイトをしてから帰るという。そういう人はまだまだ多いだろう。いやそれ以上に、暮と正月をかき入れ時にして、帰省など考えもしないアルバイト学生が沢山いるのにちがいない。

その工学部の学生（寮生）は友人の下宿に泊りこみ、友人と二人で協力して、徹夜で組立ててくれた。正月になると、四国の帰省先から「やつぱり田舎はよいです」と彼から年賀状が届いた。コタツにあたりながら、モチをたらふく食べていると、松の内などあつというまにたつてしまう。時間の観念を失つて寝てくらす故郷から、再び上京の時がやつてくると、汽車の中あたりから次第に立直つて東京ではどうやら明るまたきちんと目が覚めるようになるというなつたことになる。だいたい私の書くものは「ゲルピン」（金のない）の若い人たちに向けられることが多いから、それを選りにえつて年末に本にするのは若い人のために親切でないことになるかもしれない。かれらは秋の大祭に精魂をかたむけて、この一年の最大行事が終るとたんにコガラシをそろそろ身にしみて、あわてて冬仕度にとりかかる。春以来、大学の協同組合のクリーニング屋に預けつ放しにしてあるオーバーを、質屋から受けだすみたいに、やつと料金引替えで出してくる。利息がつかない上に虫もつかないから、これ以上の保管場所はないわけである。師走ともなれば、師でさえ走る以上学生はいよいよ懐が寒くやりきれなくなつて、本を買うところの騒ぎではあるまい。やつとの思いで帰省の汽車賃を工面して、屋根打枯して転げるように親もとへ舞いもどつていくのが関の山だ。その最末に、国鉄運賃値上げの親をきけば、こん畜生と骨髄にこたえるのも無理はあるまい。

くる年くる年、ただ寒かせきにばかり憂身をやつしている学生のことを、学生用語で「インポテ」と称している。この連中にとつては、去年も今年も来年も、変りなく「インポテ」であり、めでたく卒業就職のあかつきに、はじめて待合や特殊喫茶で「モテ」る日がくるかもしれない。しかし、大部分の学生にとつては、この一年は多事多端の震りたくさんであつたモチを食いながら、それをつらつら思いうかべてみた大学生も少くはなかつたであろう。

授業料の値上げ反対をきつかけに、昨年は自治会があちこちで再建され、学生運動は活発になつた。小選挙区制の問題にはほとんどの学生が危機感をもち、憲法改正の限止に自分も一役買う気持になつた。神棚問題や日ソ交渉の領土問題で国民意識をめざませられると、原水爆実験禁止に国民的関心が高まる中で、夏休みの帰郷運動が熱心に推進された。その後にきた砂川問題はそれらすべての問題意識を現実の行動の場で一挙に統一する力と意味をもつていた。若い知識人たち、ここで、自分自身を、日本というもの、日本の国民層をどう結びつけていくべきかという一生の課題にぶつかつたのである。

……○○……

春から夏にかけての太陽族さわぎは、秋にはもうすつかり鎮れてしまつたが、思考力を失つた衝動的な行動ということで、若い人たちはみな、自分自身にもその根があることを反省したようだ。若いエネルギーが既成の価値体系に反撥するという点では、だれしもある共感と期待をよせながら、しかし、そこに現れたコスモポリタン的なニヒリズムが、戦後十年の青春の苦々と積みかさねてきた貴重な価値までも破壊し、抹殺してしまおうとするものである点には、同感できなかつた。多くの学生が砂川と太陽族との中間にいるのである。

そこへ起つたスエズと東欧の火流血は、学生たちをとたんにヒューマニストにしてしまつた。幻想的な平和とか社会主義とかいう甘いユメが、がらがらと崩れおちしどろもどろになつて、どつちが正しいの、どつちを支持するのとなんの足しにもならない議論にわいた。そこでこそ平ぜいの思考力の根の浅さが編目にパクロされたしかし、事態が明かになるにつれ現実をもつとリアリスティックに重層的論理的にとらえて「砂川からブダペストまで」の世界を、日本人の目で見、日本の問題として考えていかねばならないということが、最大の教訓として明かになつた。

……○○……

日ソ国交回復、国連加盟で新しい年を迎えたいま、重光前外相の国連演説にも語られているようにわれわれのおかれている位置はいよいよはつきりみえてきた。日本人としての実力を貯えることが、すべての学生に要請されている。

帰郷とは、ただ寝くらに帰ることではない。「帰郷運動」という言葉にも、さつと帰郷してまたさつと帰京する、というた感じがまだつきまとつているように思える昨秋の就職シーズンに、私が「週刊朝日」で「学生よ、故郷へかえれ」というた意味も、単にファードニキ風に民衆の中で卑俗化しろというのではない。東京のホワイトカラーをたたせんと、社会主義のユメと雑居させているような「神武以来」のロマンチックな頭をここでもつと論理的にたて直すために、しつかり目分の、日本の、足もとをみつめろ、ということなのである。

……○○……

私自身にも新年早々、日本の位置、われわれの位置を思い知らされる七ケ年計画で万言の調査に乗り出した。近頃では映画、ラジオの普及により正常な方言といつては語弊があるが、昔から伝わつていることばやいいまわしを国語中のに活写するそうである。

最近なにはとみに映画の影響力が強まつているようだ。昨年なにやらと話題地的言葉が流行つた。"何々の李部"、"ユカわる"、"ドライとウエット"とか"言ます"、その他"エトセトラ"な言葉が氾濫した。ごく近頃では"神武以来"の何々とやらをタコが出来る位に聞く。このような言葉は時が経てば自然死ぬものであるが、やたらと気障に使うと当人の浅薄かさにつたなんてならんように。

（オデコ）

赤外線

日本語を可愛がろう

フランス語の教師がこんなことをいつていた。「喫茶店でね、"何いつてんだい"というのが女で、"あらそうなのよ"といつているのをみれば上ケ今の男であつたよ。話している言葉だけ聞いても男かなかからはね。」

昨年のある冬会で無本から来ている二人の男が指名されて、方言で会話をすることになつたのであるが、期待された言葉も聞かれなかつたしいうことであつた。

最近の二、三の新聞に"眼り角に来た日本語"とか"流行したことばのゆくへ"とかの記事を載せていた。NHKなども全国の隅々まで耳れ張き、地方独特の言葉を収録しているようであり、国立国語研究所でも七ケ年計画で方言の調査に乗り出した。

言葉についてはいわれることは多い。電話のことは、敬語の使い方、何も中学生の国語の域のみに限らぬ。最近先生方から漢字の読み書きの不足や語彙力の低下などを指摘される。勿論平易な言葉で済む場合はそれに越したことはない。無理に何処かの本から抜き出して不自然な使い方をする必要もさらさらないのであるが。

ワン・ジェネレーションが三年位だと云われるような今日では、考え方も話し言葉も年々著しくなつて行くのは当り前だが、言葉の場合でいえばそこに"正しい日本語の姿"というものがあろう。敬語やフランス語も大いに学ばねばならぬ。がとこで今一度日本語に対する認識を新たにしたい。隣りの青蛙の手伝い中にわが家が火事になつたなんてならんように。

（オデコ）

ゼミナールの現状

経済学部

少ないゼミに不満

学生もアクティブな態度で

—学生の立場から—　安田享

生を集めて一人の教授が講義するというマスプロ的で学生が常に受身の立場にある場合が多いのである。

そのような現状で只吾々が自由な立場で厚い大学らしい研究方法の道として残されているのはゼミナールに参加する以外にないのである。ではゼミとのような意義を持つ価値を持つのであろうか。私はそこに三つの大きな意義があると思う。その第一は、学問的な意義である。特にゼミが各ゼミナリステンのアクティブな態度を根幹として運営される点にあるその場合、現在の四年制のマを研究し、相互に討論し理解を深めて行くのであるが、自分がリポーターになつた時には「吊し上げ」をされてもそれに対し適当な解答を用意すべく大いに勉強するであろうし、反対に質問者側に立つては、相手を苦しめようとするサド的興味もあり大いに勉学意欲が高揚されるのである。第二にゼミの家庭的な雰囲気を味わえる事、又それを通じて吾々の円満な人間完成への大いなる助成となる点である。時にはゼミナリステン全員で旅行する事もあろうし、春の野山で一日語り合う事もあろうし、又その討論が単に学問的のみが専門課程の研究に止らず恋愛問題であれ、家庭の大きな意義が相互の精神的苦しみを叶義である。特にゼミが各ゼミナリステンの一人一人の人間的成長に対し、ゼミナール教授三、とここに上げた以外の大学でも、ゼミへの参加者の割合は本年までの成績の悪かつた人は、なかなか参加できないであろう。

ゼミナールに参加を許されると、諸君は教師を中心とする研究と討論とのサークルの一員となる。そこでは講義とちがつて、受身の聴講ではなくて積極的な勉学と研究とが行われるはずである。だが、学問世界がやすやすと諸君のものになると考えることはできない。諸君は教養コースでの経済学の知識またまだ不十分だから、少くとも二年を経て三年に近まれようとする学生諸君に、ゼミナールの案内のようなものを書けという註文である。

誰でも知つているように、本学では学生のうちのほんの一部しかゼミナールに入れない。ゼミナールの学生はその点一種の特権を持つわけだから、これを千分目覚していただきたい。つまりほんとうに勉強したい人だけが応募するようにし、首尾よくゼミナールに入れたらつづけて欠席などしないことである。ゼミナールの数をふやすということも、参加人数をふやすということも、大学全体の経営に関係することだから、そう容易には実現しないように思う。こういう問題はもつと大きい見地からお互いに解決をはかりたい。当分討論をきいていてもよく分らないだろう。先生の解説や一般の講義や先輩の話を聞きながら、また自分で読書しながらしつかり勉強しなくてはならない。うかうかしているとすぐ四年になつて、就職のシーズンがはじまり、諸君は推薦状を書かせることにおいてのみ教師を利用するということに終つてしまう。なお、われわれの側からいえば、推薦状はよろこんで書くけれども、それが実際に力を持つと考えられることは迷惑である。ゼミナールはけつして就職の機関ではなく、この点、ゼミナールに参加すれば何かトクがあるという考えはまちがいである。私は学生時代西洋経済史のゼミナールに入つていたが、就職の時、東京海上の重役に、「なぜ歴史などをやつたか」とふしぎそうに訊ねられた。しかたなく、「ゼミナールに入るときから東京海上を受けようとは思いませんでした」と答えて笑いをさせたようなことがある。

それから、ゼミナールで研究するには外国語の力が必要である。昔の高校生は、外国語の本をよむことが大学の入学試験の勉強になつたのだから、大学のゼミナールで外国書をよむことは常識だつた。今日ではそれは大学院へしむけられたが、それでも外国語に親しむことは必要であり、諸君の語学力の一層の強化が望まれる。

参加の第一年目には研究らしい研究に入ることはできないだろう。席上での討論をきいていてもよく分らないだろう。先生の解説や一般の講義や先輩の話を聞きながら、また自分で読書しながらしつかり勉強しなくてはならない。うかうかしているとすぐ四年になつて、就職のシーズンがはじまり、諸君は推薦状を書かせることにおいてのみ教師を利用するということに終つてしまう。なお、われわれの側からいえば、推薦状はよろこんで書くけれども、それが実際に力を持つと考えられることは迷惑である。ゼミナールはけつして就職の機関ではなく、この点、ゼミナールに参加すれば何かトクがあるという考えはまちがいである。私は学生時代西洋経済史のゼミナールに入つていたが、就職の時、東京海上の重役に、「なぜ歴史などをやつたか」とふしぎそうに訊ねられた。しかたなく、「ゼミナールに入るときから東京海上を受けようとは思いませんでした」と答えて笑いをさせたようなことがある。

それから、ゼミナールで研究するには外国語の力が必要である。昔の高校生は、外国語の本をよむことが大学の入学試験の勉強になつたのだから、大学のゼミナールで外国書をよむことは常識だつた。今日ではそれは大学院へしむけられたが、それでも外国語に親しむことは必要であり、諸君の語学力の一層の強化が望まれる。

ゼミナールでは教授の人格に接触できると期待する人もいるようである。

ゼミナールに参加を許されると、諸君は教師を中心とする研究と討論とのサークルの一員となる。そこでは講義とちがつて、受身の聴講ではなくて積極的な勉学と研究とが行われるはずである。だが、学問世界がやすやすと諸君のものになると考えることはできない。諸君は教養コースでの経済学の知識またまだ不十分だから、少くとも二年を経て三年に近まれようとする学生諸君に、ゼミナールの案内のようなものを書けという註文である。

誰でも知つているように、本学では学生のうちのほんの一部しかゼミナールに入れない。ゼミナールの学生はその点一種の特権を持つわけだから、これを千分目覚していただきたい。つまりほんとうに勉強したい人だけが応募するようにし、首尾よくゼミナールに入れたらつづけて欠席などしないことである。ゼミナールの数をふやすということも、参加人数をふやすということも、大学全体の経営に関係することだから、そう容易には実現しないように思う。こういう問題はもつと大きい見地からお互いに解決をはかりたい。当分討論をきいていてもよく分らないだろう。先生の解説や一般の講義や先輩の話を聞きながら、また自分で読書しながらしつかり勉強しなくてはならない。うかうかしているとすぐ四年になつて、就職のシーズンがはじまり、諸君は推薦状を書かせることにおいてのみ教師を利用するということに終つてしまう。なお、われわれの側からいえば、推薦状はよろこんで書くけれども、それが実際に力を持つと考えられることは迷惑である。ゼミナールはけつして就職の機関ではなく、この点、ゼミナールに参加すれば何かトクがあるという考えはまちがいである。私は学生時代西洋経済史のゼミナールに入つていたが、就職の時、東京海上の重役に、「なぜ歴史などをやつたか」とふしぎそうに訊ねられた。しかたなく、「ゼミナールに入るときから東京海上を受けようとは思いませんでした」と答えて笑いをさせたようなことがある。

それから、ゼミナールで研究するには外国語の力が必要である。昔の高校生は、外国語の本をよむことが大学の入学試験の勉強になつたのだから、大学のゼミナールで外国書をよむことは常識だつた。今日ではそれは大学院へしむけられたが、それでも外国語に親しむことは必要であり、諸君の語学力の一層の強化が望まれる。

ゼミナールでは教授の人格に接触できると期待する人もいるようである。

ゼミナールでは教授の人格に接触できると期待する人もいるようである。

ゼミナールでは教授の人格に接触できると期待する人もいるようである